論文・事例研究　論文・研究レポート掲載にあたって

田口　東（中央大学）

5月よりオペレーションズ・リサーチ誌の編集を担当し，ほぼ半年分を手がけたところです．学会の顔となる機関誌を発行することの責任を一層強く感じております．現在のところ，特集と投稿論文に主として力を注いでおります．一方，講座や解説になかなか手が回らなくて申し訳なく思っております．

特集テーマに関しては次のことをこころがけたいと考えています．会員全般を見渡したとき，それぞれ興味を持たれるテーマやその取り上げ方は幅広く異なるでしょうから，毎号がすべての方に取って興味があるというのは難しいでしょう．しかし，少なくともどなたか（ある層）にとって非常に興味深い内容としたいと考えています．そして，それが年間を通してみるとバランスするようにしたいと考えています．

編集委員は人数も力量も限られていますのでORで取り扱うべき分野をすべて見渡すのは難しいことです．これを補う意味でも皆様からの提案を積極的に取り上げていきたいと思います．この具体例の一つが企業事例交流会の特集です．研究発表会と合わせて開催される交流会の内容を，発表時の討論を含めてより掘り下げて解説していただくものです．研究発表会の半分以上は支部の主催となるので，自然に支部の特色が現れる企画になると思っております．

さて，今月は特集をお休みして，投稿論文を掲載いたします．読者の立場にたっての感想とともに紹介いたします．最初は竹林渉氏他の「フラクタル時系列の性質を用いた建材需要予測の一手法」です．建材の売り上げデータは，時系列が非定常であり，日々の変動が大きいという難しい点を持っています．後者より，データを集計して変動を緩和する必要があり，これからフラクタル性が導かれます．観測データからシステムを同定し，フラクタル時系列の自己相似性を利用して，時間スケールを伸長して将来を予測します．数学的に難しい内容を持つフラクタル性がどのように適用できるのかがわかって大変興味深い論文です．

次は永井亮雄氏他の「潜在的旅行者数を考慮した観光地選択モデル」です．観光地選択に関するデータが旅行者に対して得られているのを，旅行を断念した人も考慮に入れて観光地選択構造を明らかにする所がねらいです．構造的に欠損したデータを補う手法の提案になっています．ロジットモデルを用いて，行き先別，時期別に，旅行費用の割高感に基づいて推定される旅行実行確率を導入し，実際の旅行者数から断念者数を推定します．そして，旅行者のアンケート結果を用いて観光地の競合関係を明らかにします．残念ながら，旅行断念者の数を使っただけで新しい結果が出てくる仕組みがよくわかりませんでした．

3番目は木下栄蔵氏の「AHPによる首都機能移転地域選択に関する分析」です．最近，移転地域の候補が絞り込まれたという報道があり，その評価がAHPを用いて行われたという解説がなされていました．実際に選定作業で何が行われたかが明らかになるのが楽しみです．さて，この論文は，題材を首都機能移転に取り，解を示すとともに手法の提案を行っています．代替案の数が多く，それらの評価値が定量的でない場合に，いくつかの評価水準を設けて評価水準間の一対比較を行い，代替案がどの評価水準に入るかを評価することによって代替案に評点をつける方法です．

最後の論文は三道弘明氏他の「化学製品に対する最適計り直し量に関する一考察」です．現実的な制約がある面白い問題が扱われています．一日，非常に重いものを測定し，最後に秤の検査をします．もし秤に狂いがあれば，その日の分を計り直さなければなりません．一日の測定で秤が狂ったのですから，計り直せば同じ様に狂う可能性があります．初めて秤が狂った品物を見つけるのは，重いものを積み上げた後なので，実際上不可能です．このような条件の下での最適な計り直し方法を提案しています．

投稿論文は，理論・手法を論じたものに限らず実際の問題と結びついた適用事例を積極的に掲載したいと考えています．積極的な投稿をお願いします．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．